

しゃらくかい
写楽同会

令和3年11月30日 71

<https://3ban.nobody.jp/syaraku/syaraku.html>
投稿/投票宛先 ; kinuko_thompson@hotmail.com
© 2021 Sharakukai

写真俳句

霜月兼題「紅茶またはコーヒー」

出題：マム



1 たどり着き小屋のコーヒー秋納

季語：秋納（秋）

日本で2番目の高山「北岳」登山途中の白根御池小屋。



2 宵寒やゴトンと熱き缶珈琲

季語：宵寒（秋）

冷えた体に熱き珈琲はホット？しますね。



3 初霜に通勤電車カフェロマ

季語：初霜（冬）

駅前の移動カフェの写真です。朝の郊外から
ロンドンに向かう電車にはコーヒー飲みが多い。



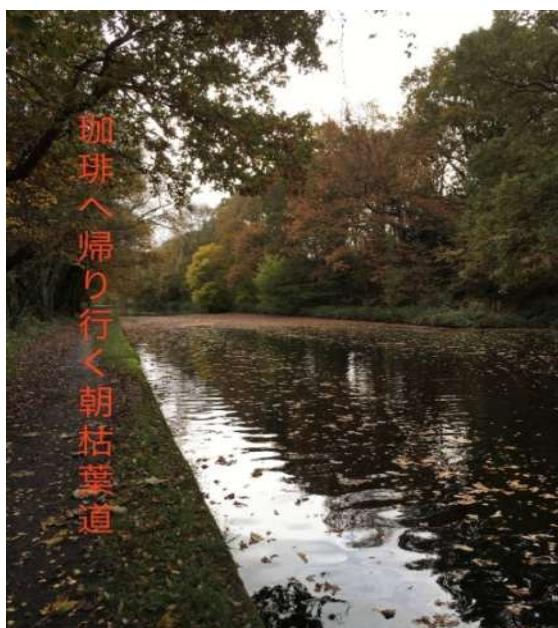
4 龍井茶 (ロンジン ティ) 美 (は) しくのどやか龍潜む

季語：龍淵に潜む (秋)



5 旅の駅缶コーヒー手に冴ゆる夜

季語：冴ゆる (冬)



6 珈琲へ帰り行く朝枯葉道

季語：枯葉 (冬)



7 夏旅の疲れを癒すティーポット

季語：夏 (夏)

イタリアの田舎町で立ち寄ったバルで、
可愛いティーポットでお茶を出してくれました。



8 冬めきて紅茶に少しブランデー

季語：冬めく（冬）

紅茶にブランデーを落とす。温まりますね。



9 珈琲をこぼして出来る早秋の絵

季語：早秋（秋）



10 コーヒーの香り高まる秋高し

季語：秋たかし（秋）

店の外でもコーヒーの香りが上っていくようでした。

俳句



「紅茶またはコーヒー」

今月の兼題の看板を掲げた店

北切雀

- 1 吾はラテ妻ブラックの秋うらら 季語：秋うらら（秋）
- 2 あたたかきコーヒー香る夜長かな 季語：夜長（秋）
夜はコーヒーを飲まない人が多いのですが、時々ほっとできます。
- 3 茶一杯ねばる熟女やみのり秋 季語：秋（秋）
- 4 秋気澄む ドリップごとの香りかな 季語：秋気（秋）
- 5 ジョギングの帰りはコーヒー秋の宵 季語：秋の宵（秋）
定期的にジョギングをしている息子は帰りはいつもコーヒーを持って帰って来ます。
- 6 珈琲色のコート足早やな女（ひと） 季語：コート（冬）
- 7 毎朝のホットコーヒー仏前と 季語：ホットコーヒー（冬）
- 8 封を切る珈琲の香や冬の朝 季語：冬の朝（冬）
寒い朝に一杯の珈琲は至福の時です。
- 9 秋深し朝餉のセーロン茶甘し 季語：秋深し（秋）
- 10 目が覚める晩秋の朝珈琲を 季語：晩秋（秋）

短歌

（連作1日目 数字にこだわりました。）

準坊 夜十時挑む作句に四苦八苦二時間かけて才無き悟る

（2日目）

テーブルに消しゴムかすの散らばりて昨夜の作句苦悩の名残り

川柳

準坊 絨毯の端につまづく頻度増え

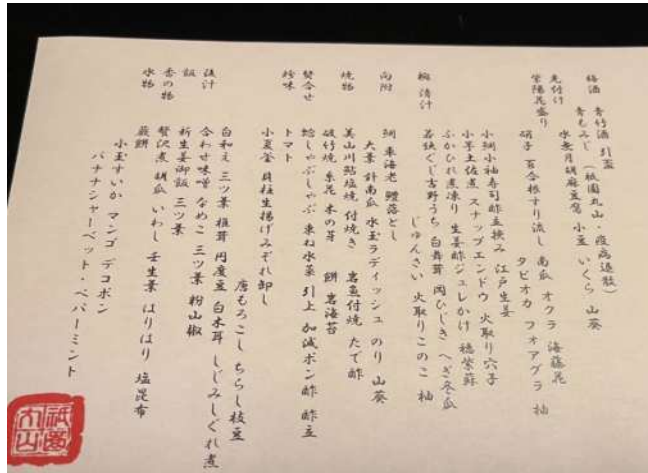
おととと立って靴下履くは無理

麻生さん頭の中が温暖化

お米が旨くなったのは農家のおかげで無く温暖化のおかげだと！

この写真で一句

到着順



祇園丸山のおしながき

撮影：NGさん

準坊

品書きに秋刀魚塩焼き追加され

季語：秋刀魚（秋）

壁一面手書きのメニュー秋を盛る

季語：秋（秋）

食欲の秋ですね。

陽閑

箸が追う縦書き料理秋の宿

季語：秋の宿（秋）

決め難し品書眺め秋たかし

季語：秋たかし（秋）

早よ決めよ待てよメニューの実り秋

季語：実りの秋（秋）

北切雀

我が代で消える土筆（つくし）のてんぷらや

季語：土筆（春）

誰も採らない、作らない、食べない。

はも、いわな、はりはり漬や夏の膳

季語：鱧、岩魚、夏（夏）

久保田万太郎「ばか、はしら、かき、はまぐりや春の雪」を模して。

強情にかぼちゃ包丁拒みけり

季語：南瓜（秋）

硬さより大きさに手こずる。松本たかし「出刃の背を叩く拳や鯉切る」を実践する。

クリスマス今年のメニュー鷺鳥（がちょう）なり

季語：クリスマス（冬）

例年七面鳥ですが、この年は子供の希望で鷺鳥になりました。

久芽

おしながき自筆で書いて栗ご飯

季語：栗ご飯（秋）

池福楼

朝がゆやお軸も賞でる冬の京

季語：冬（冬）

自由俳句

陽閑（写真俳句と英訳）



夕暮の鳥が溶け入る鰯雲

夕暮の鳥が溶け入る鰯雲

季語：鰯雲（秋）

Birds melting into a mackerel sky at dusk.



蜘蛛の巣に雫光りし秋の朝

蜘蛛の巣に雫光りし秋の朝

季語：秋の朝（秋）、蜘蛛の巣、蜘蛛の囿（夏）

Dew drops on a spider's web sparkle in
an autumn morning.

写真投稿

iSAMU

**舞鶴草の実****池之平湿原の紅葉**

<< >>は作者コメント、* は読者コメントです。

写真俳句 投票数：32

一席 望月や島影澄みて藍の海 池福楼 (7 票)

借画像 季語：望月 (秋)



- * 超現実的写真。「藍の海」は身体を沈めたら染まりそうな気がします。
- * 句と写真がマッチしてとても良いです。水平線が傾いているのもグウです。
- * とても綺麗な句で写真は怖いぐらい神秘的。
- * 写真と句のバランスがいいなと思いました。
- * 藍の海の写真は素晴らしいと思いました。神秘的。
- * どこから借りた画像か知りませんが、写真の印象を見事に俳句にまとめましたね。

佳作 (令和3年10月号掲載順)



北国へ旅小春日の島巡り 一枝

季語：小春日 (秋)

- * 船尾の眺めというのが新鮮。北国も晴れると暖かそう。
- * 「北国へ旅」の区切りが定型にとらわれず、次に繋がり物語性があり小説のような展開です。



寒いねと秋の列島霜が降る 梵木

季語：寒し、霜 (冬)、秋 (秋)

- * 素直な呟きの句。紅葉が見事。
- * 季語がたくさんありすぎるような気がしましたが写真が素敵。
- * お二人の会話が聞こえてきそう。写真も素晴らしい。
- * 島を入れることに苦心されたのでしょうか…季語が盛り沢山ですね。写真に魅せられて1票入れさせていただきました。

そぞろ寒富士の息吹に江ノ島は 準坊

季語：そぞろ寒 (秋)



<< 江ノ島と富士山は絵葉書になりますね。 >>

- * まさに絵葉書。
- * とても綺麗な写真です。今度ドライブに出かけてみたいです。割と我が家から近いので。
- * 江ノ島と霊峰の取り合わせは、広重の名画から続いている選ばれた日本の島風景です。
- * 何とも美しい風景ですね。夏の江ノ島とは趣が違います。
- * 「真白き富士の嶺」の歌を思い出しました。ちょっと古いかな。



島揺らす火山勢い星月夜 (ニュース写真) 陽閑

季語：星月夜 (秋)

<< ラ・パルマ噴火、人的被害無し、島民は夜には皮肉に星月をながめているやを想像して。 >>

* 恐ろしい火山の噴火と美しい星空の対比が見事な句。

- * 1ヶ月たっても噴火の勢いは衰えず。奇跡的に死傷者は出ていないものの、2000軒以上の家屋を破壊した自然の威力。
- * 闇が背景のせいか噴火が際立って自然現象の迫りに圧倒されます。島の大事件ですが、さらに遠く見渡せば大宇宙は果てしもなく広がっていて自分のいる世界の何と小さいことか、でもその大小の存在が繋がっている不思議な感覚を味わいました。

実朝の詠いし小島 秋日和 昼寝覚

季語：秋日和（秋）

<< 箱根路を我超えくれば伊豆の海や・・・」の歌に出てくる初島、
写真の真中の小さな島です。>>

- * 実朝は生まれる時代を間違えたかもしれませんね。
- * 海のラインと輝きに浮かぶ初島、素敵です。
- * 初島は東京から一番近い離島。今やリゾートとして人気がありますね。
- * 初島は昔に行った事もあり今はリゾートアイランドになっていますね。



小春日やゆさりゆさりと盃舟 (たらいぶね) 久芽

(借画像) 季語：小春日（冬）

<< たらい舟は佐渡島の名物で観光客に人気ですね。>>

- * ゆさりゆさりが良いですね。
- * 明治時代の外国人向けの絵葉書を思わせます。
- * 写真と句のマッチした羨ましい景色は是非経験したいです。
- * たらい舟のなんともものどかな風景。秋の好天に乗ってみたい。
- * ゆさりゆさりという表現がいいですね。



水ひいて川瀬の島に彼岸花 千泉

季語：彼岸花（秋）

<< 誰かが植えたのでしょうか、雑草の中の彼岸花が鮮やかでした。>>

- * 彼岸花は名の如く見るたびに季節を感じますね。
- * 刹那的に現れてできる多分小さな島なので、わずかな土でも根付いて花を咲かせる植物の力強さに感動です。
- * 縁起の悪いイメージのある彼岸花。でも仏教上では天の花。水害被害者への供養でしょうか？



滝しぶき川の小島も霧の中 iSAMU

季語：滝しぶき（夏）

- * 迫力ある川景色。レインコートが要りそうですね。
- * ダイナミックな瀑布ですね。観光の為の橋も揺れているよう。



島崎藤村「椰子の実」に寄せて

ふるさとは夜寒も知らぬ島の椰子 北切雀

季語：夜寒（秋）

- * 「遠き島より流れ寄る～」の歌詞を題材に望郷の念を詠った上手な句。画像に和柄の青海波を取り入れた背景がニクイですね。
- * 名も知らず遠き島より～～つつい口ずさんでしまいます。



- * 「夜寒も知らぬ」という否定が然も遠い島の描写として使われているので、俳句自体はむしろ無季の句ということになるのでしょうか？写真が工夫されていて可愛らしいし、好感が持てます。

俳句 投票数：30



カット写真：梵木

一席

うそ寒や小島の宿の朝の膳 一枝（6票）

季語：うそ寒（秋）

- * 「うそ寒」は興味をそそられる季語。
- * 朝の冷えた空気の中、膳の温かいご飯と味噌汁の湯気が浮かびます。
- * 島の宿といえば何となく大賑わいの夏が思い浮かびます。この句からはひっそり自分だけでまるで島全部を独占すべく、シーズンオフを楽しんでいるのではと想像が膨らみ、羨ましい限りです。
- * 同じように感じた経験があります。
- * 何と無く寒い朝の食卓はまず熱いお茶を一口。

佳作（令和3年10月号掲載順）

秋澄みし能登の端っこ佐渡の見ゆ 準坊

季語：秋澄む（秋）

<< 快晴の時には能登の禄剛崎より遙か佐渡島が望めます。>>

- * 能登の端っこって、飾らない感じでいいですね。「秋澄みて」だったらもっと好きかも。
- * 行ってみたい！！秋の空気が気持ちよく澄んだ感じが良いです。
- * いつかは行きたい佐渡島。

秋ふかし郷土の味や島納豆 陽閑

季語：秋深し（秋）

- * 旅してみたい気持ちがわいてきます。
- * 郷土の味は、それぞれ味わいが深いですね。
- * 「島納豆」食べたことはありませんが、ひなびた良い味なのでしょうね。

島山を右舷に過ぎて秋の潮 北切雀

季語：秋の潮（秋）

<< 7月号の千泉さんの俳句カット写真から発想しました。千泉さん、ありがとうございました。>>

- * 私（千泉）の写真からの発想とのこと光荣です。
- * 島に来たのかな？でもきっと島から出て行くのでしょうかね。

江の島のふるさと花火吾娘（あこ）の盆 マム

季語：花火（夏）盆（秋）

島豆腐荒縄掛けて神無月 梵木

- * 沖縄で温かいままで売られる豆腐とか。味わってみたいです。
- * 高野豆腐を作るのかローカルな家の軒先が目には浮かびますが、実際にはどうなのかしら？

- * 富山・御箇山もそうですが荒縄の掛かる豆腐、味わいたい。
- * 見た事がありますが 木綿豆腐よりも硬いんですね。

秋晴るる土産くさやと決めており 久芽

季語：秋晴るる（秋）

<< 伊豆七島のお土産は何と言ってもくさやです。>>

- * くさや大好き。
- * 島という言葉を使わず、こんなに納得できる作品に仕上げている素晴らしいと思います。
- * 「秋晴るる」って言い回しを始めて聞きました。クサヤと決めておりが良いですね。
- * 島への観光に行く気分がお土産を想像することで盛り上がってくる。
- * その昔母に頼まれて買い物に行き 鱈の干物とおもって買ってしまったことがありました。焼くと臭いので 傷んだ物を買ってしまったのかと 慌てた事がありました。

台風の来るまえ島に急ぐ船 千泉

季語：台風（秋）

<< 定期便らしき船が白波たてて島に向かっていました。>>

- * 気象情報が迅速、的確になり人命が多く救われるようになりました。

秋潮の波音近き鬼ごろし 池福楼

季語：野分（秋）

<< 八丈島の民宿にて飲んだ地焼酎の味が忘れられない。>>

- * くさやと鬼ごろし、たまらない。
- * くさや肴に鬼ごろし、いいですね～。作者は相当いただけそうですね。
- * あまりいける口ではないのですが、味覚と聴覚の組み合わせの妙を評価します。
- * 旅先で波の音を聴きながらのお酒は、進みそうですね。
- * 3の「うそ寒や」の句と同様に、情緒ある一風景が目浮かぶ句ですね。

サイパンのバンザイクリフ 夏静か 昼寝覚

季語：夏（夏）

<< 戦争中多くの人が身を投げたというバンザイクリフ、今では静かに波が打ち寄せていました。>>

- * 独自の発想の句。なんとも言葉もありません。

短歌

準坊 釣り銭に一円玉を貰わぬようポケットの中9円忍ばせ

コーヒーのソーサ持つ指震えだし遂にきたかと老いを感じて

- * 川柳のように笑えないこの歌に老いの現実があります。治りにくい体の不調が続くと弱気になりますね。それでも気持ちだけは前向きに！

北切雀 島の子ら褪せた写真のその笑顔なほも光りて吾を貫く

<< ニュージーランドの東、トンガタブ島に長逗留してから半世紀。>>

- * 50年前のことが昨日の体験のように蘇る1枚の写真。子供たちの表情は昔と同じように光り続けているんですね。

写真いいね!**寒いねと秋の列島霜が降る 梵木**

* 見事な紅葉の風景。建物の雰囲気と木々の美しい色合いが錦絵のよう。

- * 師走12月兼題は陽閑さんから「プレゼント」と出ています。
- * 霜月11月号の作品の写俳、俳句の中で「いいね」と思われた2作品の番号を投票して下さい。
- * また特にいいと思われた写俳、俳句各1作品に持ち票2票ずつを投票されても結構です。
- * 句とは別に写真として特にいいと思われる写俳作品がありましたら「写真いいね!」として投票下さい。
- * 作者名が入った作品は投票対象外です。
- * 11月号への投票と12月号作品への投稿の締め切りは、ともに12月20日です。
- * 読者さんからの写真や句の投稿もお待ちしています。

令和3年12月号の全作品は記名掲載となり、投票はありません。

令和4年1月からの「写楽句会」

過日 eメールでお知らせいたしましたように、令和4年2月から新しい形で「写楽句会」をお届けいたします。これまで同様、ご協力よろしくお願いたします。

令和4年2月発信「写楽句会」の兼題はCKさん出題「雑煮」です。

「雑煮」から正月等にイメージを飛ばしても良いかとおもいます。

締め切りは令和4年1月20日です。イメージ写真も発想のタネとしてご利用ください。

なお、「短歌、狂歌、自由俳句、写真投稿、この写真で一句」の掲載はなくなります。



写楽句会 連絡先 : kinuko_thompson@hotmail.com
 写楽句会 : <https://3ban.nobody.jp/syaraku/syaraku.html>
 四季の森空間 : <https://isamusouma.web.fc2.com/>